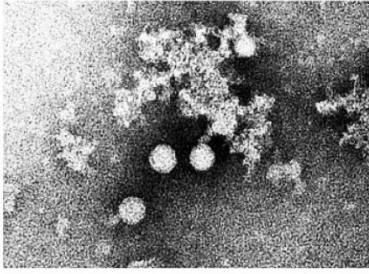


県内、手足口病急増

警報レベル、予防呼び掛け

県は17日、主に5歳以下の乳幼児の手足や口内に水ぶくれができる「手足口病」の県内患者数が6～12日の週に急増し、警報レベル



手足口病の原因になるエンテロウイルス(円形の部分) 県提供

に達したと発表した。今後も流行が拡大する恐れがあり、予防のため手洗いやうがい、励行を呼び掛けている。

手足口病は、感染した乳幼児がなめた玩具を別の子が触れたり、くしゃみの飛沫(ひまつ)を浴びたりすることなどでウイルス感染が広がる。発熱や喉、口内の痛みなどを伴い、まれに重症化する場合もある。

患者数が、6月29日～7月5日の週は4・97人だったのに対し、6～12日の週は7・27人に増加。2年ぶりに警報レベルの基準値(5人)を超えた。

患者数の推移が今年と似ている2013年夏は3週間後の12・01人まで感染が広がったことから、県は今年もさらに流行が拡大する可能性があるとして、ホームページなどでも注意を喚起した。

2015年7月18日 朝刊

①手足口病とは、どんな病気でしょうか。

②手足口病は、どのように感染するのでしょうか。

③予防のために大切なことを書きましょう。

年 組 名前